那賀郡国語研究会のあゆみ

１　本郡の状況

郡内の小学校は，那賀川上・中流域に位置する山村の僻地校６校と小規模校１校の合計７校である。会員数は９名で，少人数ではあるが意欲的に研究を重ね，国語関連の研究会にも積極的に参加し，研修を深めている。また，地理的に広範な地域であるが，ローテーションによる授業研究会を年間に１回は行っており，家族的な雰囲気の中で指導力の向上を目指し，計画的・積極的に研修を進めている。

来年度は，県南国語教育研究会を本郡（桜谷小学校）で開催する予定になっている。本年度の研修を土台に，実りある研修会が開催できるよう取り組んでいきたいと考えている。

２　組織

係校長　西谷　泰　幸　（相生小）　　係教頭　助岡　富代美　（鷲敷小）
部　長　亀島　賀陽子　（鷲敷小）　　副部長　山本　あゆみ　（平谷小）
幹　事　武市　佳　訓　（桜谷小）

３　研修に関する事業および研究の経過

(1) 研究主題　　主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造
　　―「読むこと」を基盤に，知識・技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導 ―

(2) 研究内容

①　那賀郡小学校教育研究集会国語部会（５月７日　相生小学校）
　○　研究組織づくり，研究主題の決定，研修計画の立案，作文読本編集・各原稿の執筆について

②　徳島県小学校国語教育研究大会の運営委員役割についての打ち合わせ（8･10月　鷲敷小学校）

③　那賀郡国語部会　授業研究会並びに研修会（１０月１３日　桜谷小学校　）
　○　授業者　　桜谷小学校　武市　佳訓　教諭
　○　学年・教材名　　第４学年　　「一つの花」
　○　講師　　学校教育指導員　　佐那河内小学校　宮本　浩子　指導教諭

ア　単元の目標

作品の中の大事な言葉に気をつけ，場面意識をもって登場人物の様子や気持ちを読み取るとともに，それを言葉や文章で表現する。

イ　単元の評価規準

（略）

ウ　学習計画

第１次　全文を読み，学習のめあてをもつ。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間
第２次　場面ごとに，父・母・ゆみ子の気持ちや情景を読み深める。・・・・６時間（本時５/６）
第３次　感想をまとめる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間

エ　本時の学習

○　本時の目標

別れのときに泣き出したゆみ子をあやすお父さんの気持ちについて想像を深める。

○　展開

段階	学　習　活　動	○指導上の留意事項　☆補助留意事項	評価基準（評価方法）
つかむ 考える	1　前時を振り返り，本時のめあてをつかむ。 2　お父さんの様子が表れているところを見つけ，その時の気持ちをワークシートにまとめる。	○　４場面を読み，人物の様子や気持ちについて考えることを知らせる。 ○　お父さんの様子が分かるところにサイドラインを引かせる。 ☆　黒板に挿絵を掲示し，場面や情景を想像させる。	読：見送り当日の父の様子を読み取り，コスモスに込められた父親の気持ちを考えている。 （発言・ワークシート）
伝え合う	3　お父さんの様子や気持ちについて読み取ったことを全体で交流し，読みを深める。	○　どの部分からどんな情景や人物の気持ちを読み取ったり想像したりしたのか，具体的に示しながら発表するようにさせるとともに，友達の考えを自分の読みと比べながら聞くように助言する。 ☆　自分が読み取れていなかった部分は，自分のワークシートに書き足すように助言する。	話：課題に対して自分の考えを持ち，みんなに伝え，友達の考えと聞き比べながら言葉でまとめている。 （発言・観察）
まとめる	4　本時の学習を振り返り，場面４を音読する。	○　父の気持ちを考えながら音読させる。	読：情景や登場人物の気持ちを想像しながら音読できている。 （音読・観察）

オ　研究協議事項及び指導助言の内容（抜粋）

・「核となる問い」を中心に据えなければ，こどもたちの読みがずれる。子ども達の発達段階に合わせて，読みの指導は３段階ある。低学年は「住む」，中学年は「眺める」，高学年は「意味づける」。３・４年生では，人物になりきる尺度では読みきれなくなる。筆者が言いたいことは何だろうかという発問を投げかけていくことが大事。

・父の気持ちばかりを追っていたのでは，平和や戦争という意見には届かない。「花に託する思いとは何だったんだろう。」と問う。いかに総合させて解釈させるかが大事。

｛例｝　・コスモスの花言葉を取り上げ，読みを深めていく。

・「たくさん」と「ひとつ」を対比させる。

会員の活発な意見交換や講師の宮本先生からのご助言・ご指導により，密度の濃い充実した研修会となった。

（鷲敷小学校指導教諭　　亀島　賀陽子　記）